

### 先輩のアドバイス

定例会で委員が集まった折、中堅委員の高橋さんに相談を持ちかけてみました。私がこれまで関わってきたことを話すと、高橋さんは最後までじっと聴いてくださり、こう切り出しました。

「鈴木さん、お一人で苦労されていたんですね。私たちも気づくことができなくてすみませんでした。私も新任だった頃、同じような経験をしたことがあります。でも、一生懸命に取り組むということと、その人の人生を背負うということは、やはり違うかもしれませんね」

高橋さんにこう言われて、私はハッとしてしまいました。いつの間にか、私は小林さんの人生そのものを背負い込んでいたのです。

「鈴木さんは、その地区の担当委員です。もちろん、民生委員という立場で、地域住民の皆さんに寄り添い、生活上の悩みや相談を受ける立場にあります」

ゆつたりと話をしながら、高橋さんは続けて、「でも、私たちの活動は、個人のボランティアではないんです。鈴木さんの周りには、様々な人たちが関わっていると思ってください。あなた一人が背負い込むことと、その人を支援するということは、やはり別物だと思った方がいいですよ」

高橋さんのひと言で、これまで私が行ってきたことが、果たして民生委員としてのものだったのかどうか、次第にあやしくなってきたのです。

### 目からウロコだった会長からのひと言

高橋さんは、その場で田中会長に掛け合ってくれました。横で黙ってしまっていた私は、知らず知らずのうちに涙ぐんでいたようです。

田中会長は、やさしく微笑みながら、「今まで大変でしたね。私たちも気づかずに申し訳ありませんでした」と、高橋さんと同じように私を気遣ってくださいました。

「私たちの活動は、一人ひとりの委員である皆さんの力にかかっているといえますが、その一方で、“支援と支持”に支えられている活動であるともい

えるんです」

支援と支持？ 何ともピンときていなかった私の顔を見て、再び微笑みながら「鈴木さんが取り組もうとしていたことに対して、会長である私や他の先輩委員は、どのように進めていけばよいか、その方向性を示したり、アドバイスをする立場にあるんです。これはすなわち『支援』ですね。その上で、鈴木さんの活動を理解し、そっと見守り、必要に応じて助けていくこと、それが『支持』です。民生委員活動は、お互いがこの『支援と支持』の関係のもと、しっかりとつながっていくべきなんです」

田中会長の言葉は、まさに目からウロコでした。と同時に、それまで胸の中に渦巻いていた不安や、肩にかかっていた重い気持ちが一気に軽くなっていくのがわかりました。

### 民生委員の役割や立ち位置とは？

翌日、田中会長も同伴で、小林さんのお宅へ伺うことになりました。田中会長は、これまでのいきさつや私の気持ちを説明し、その上であらためて、小林さんのこれからの生活をどのように支援できるのかということの相談にのっていきたいと伝えてくださいました。

小林さんは、「私の方こそ、鈴木さんの気持ちも考えず、何もかも甘えてしまっておめんなさい。これからは、自分でできることは自分で行いながら、それでも相談にのってほしい時は、遠慮せずお話をさせていただきます。だって、私にとって鈴木さんは、心強い隣人のような存在だもの」と言ってくださいました。

小林さんのお宅からの帰り道、田中会長は「活動をしていると、いろいろな人と出会います。ある意味、それは他の仕事や付き合いでは得られない宝物のようなものかもしれません」と話し始めました。

「はい、私もそう思います！」

そう張り切る私を見ながら、再び微笑んで「でも、鈴木さん、一つだけ忘れないでほしいことがあるんです。それは、『やりがいはあるけれども大変だ』と感じるのではなく、『大変だけれどもやりがいがある